資料６－３

デジタルインフラ整備計画2030に基づく 5Gインフラの整備状況 （令和7年度末）

令和８年11月

総　　務　　省

移 動 通 信 課

デジタルインフラ整備計画２０３０に掲げる５G等の整備目標

- 2030年頃のモバイルネットワークについて、**高周波数帯（サブ６・ミリ波）の一層の活用・５Ｇ　ＳＡの普及等**により、超高速・低遅延・多数同時接続といった**５Ｇの特長を活かした高品質な通信サービスが広く普及**するとともに、道路等の**非居住地域であっても通信環境の確保が求められる地域については、多様な手段によるインフラ整備が進んでいる姿を目指す。**
- 上記を踏まえた具体的な整備目標は、次のとおり。

●５Ｇ人口カバー率
2030年度末：全国・各都道府県99%（2025年度末実績：全国98.6%）

●サブ６展開率（複数事業者のサブ６基地局が展開されているエリア）
2027年度末：90%、2030年度末：95%（2025年度末実績：80.3%）

●ミリ波基地局数
2027年度末：合計５万局、2030年度末：合計７万局　（2025年度末実績：4.5万局）

●都道府県庁及び市区町村の本庁舎の５Ｇエリアカバー
2025年度末：100%（2025年度末実績：98.7%）

●５Ｇ基地局数
2025年度末に合計30万局、　（2025年度末実績：34.7万局
2030年度末に合計60万局（うちインフラシェアリングによるものは30万局）　うちインフラシェアリングによるものは19.0万局）

●５Ｇ　ＳＡ
今後整備するサブ６・ミリ波を使用する５Ｇ基地局は、原則として全て、将来的にはＳＡ対応が可能となる基地局として整備

●道路カバー率（高速道路及び国道）
2030年度末：99%、高速道路については100%

5G基地局数・5G人口カバー率の状況（令和7年度末（2025年度末））

- 2025年度末の各携帯電話事業者※1の５G基地局数※2 ・５G人口カバー率は、下表・グラフのとおり。

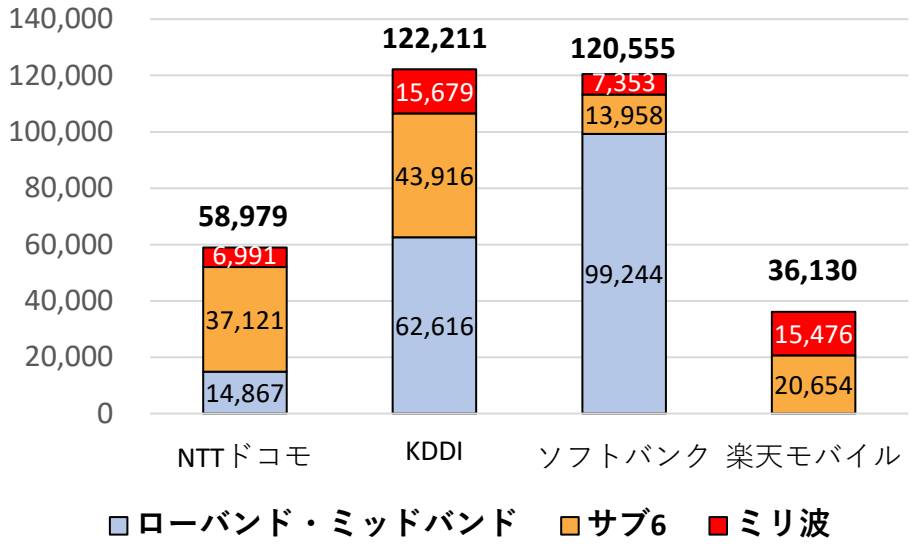
※1 株式会社NTTドコモ（以下「NTTドコモ」という。）、KDDI株式会社・沖縄セルラー電話株式会社（以下「KDDI」という。）、ソフトバンク株式会社（以下「ソフトバンク」という。）、楽天モバイル株式会社（以下「楽天モバイル」という。）の5者。
※2 陸上移動中継局を含み、屋内小型基地局及びフェムトセル基地局を除く。

携帯電話事業者ごとの５Ｇ整備状況（５G基地局数・5G人口カバー率）

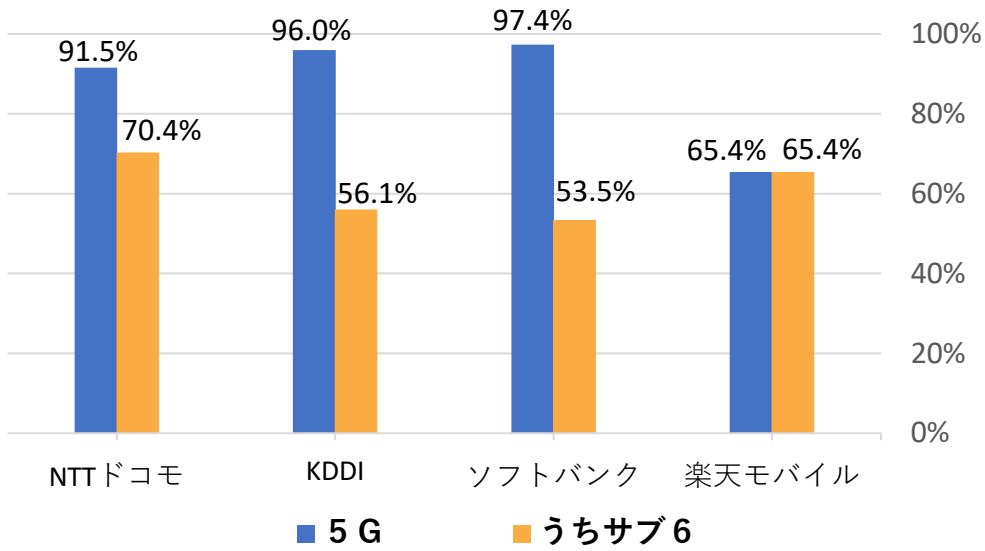
	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル	合計
５G基地局数 （前年度比）	**58,979 局** （＋6,447 局）	**122,211 局** （＋12,174 局）	**120,555 局** （＋16,114 局）	**36,130 局** （＋1,022 局）	**337,875 局** （＋35,757 局）
５G人口カバー率 （前年度比）	**91.5 %** （＋2.1 pt）	**96.0 %** （＋1.4 pt）	**97.4 %** （＋0.3 pt）	**65.4 %** （＋4.3 pt）	**98.6 %**※3 （＋0.2 pt）

※3 携帯キャリア5者のエリアカバーを重ね合わせた数字（小数点第2位以下を四捨五入）

５Ｇ基地局数（周波数帯ごと）



５Ｇ人口カバー率



サブ6展開率の状況（令和7年度末（2025年度末））

- 全国のサブ６展開率（複数事業者のサブ６基地局が展開されているエリア）※1は、2025年度末で**80.3%**※2。

※1 三次メッシュ（全国の三次メッシュのうち、人口が多い順に1番目から13,250番目までのメッシュに限る。）のうち、複数事業者のサブ6基地局（3,600MHz～4,100MHz、4,500MHz～4,600MHzの周波数の電波を使用する基地局（陸上移動中継局を含み、屋内等に設置されているものを除く。））が展開（当該基地局が設置されている又は当該基地局により面積の3/4以上がエリア化されていることをいう。）されている三次メッシュの割合

※2 目標：サブ6展開率（複数事業者のサブ6基地局が展開されているエリア）を2027年度までに90%【デジタルインフラ整備計画2030】

全国のサブ６展開率※3

（2026年３月末）

NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル	全体※4
76.4% （＋5.8pt）	**60.0%** （＋1.5pt）	**53.5%** （＋3.2pt）	**63.1%** （＋5.2pt）	**80.3%** （＋4.8pt）

※3 括弧内は前年度比

※4 携帯キャリア5者のうち複数事業者のサブ6基地局が展開されているメッシュを重ね合わせた数字（小数点第2位以下を四捨五入）

都道府県ごとのサブ６展開率※5

（2026年３月末）

北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県
90.2%	93.4%	91.5%	82.4%	85.7%	92.9%	80.1%	43.8%	38.6%	35.1%	68.4%	65.4%	88.1%	72.3%	84.4%	92.6%

石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県
97.5%	93.4%	91.0%	92.7%	66.5%	86.7%	76.4%	43.8%	76.8%	89.0%	95.9%	89.7%	83.2%	94.1%	97.8%	100.0%

岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
93.4%	92.2%	56.9%	96.5%	97.6%	93.9%	96.7%	89.6%	84.7%	87.2%	85.2%	92.9%	86.9%	93.2%	66.5%

※5 携帯キャリア5者のうち複数事業者のサブ6基地局が展開されているメッシュを重ね合わせた数字（小数点第2位以下を四捨五入）

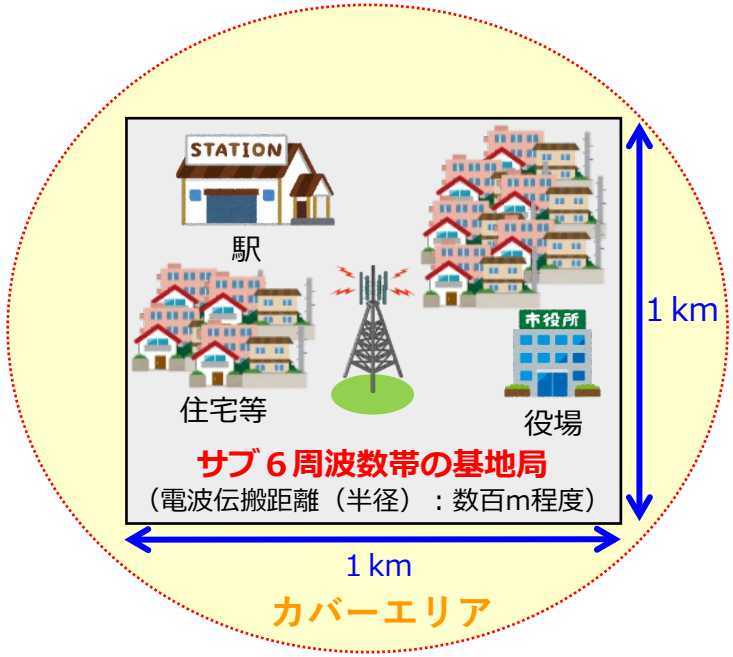
（参考）「サブ6展開率」の考え方

- サブ６周波数帯の電波伝搬距離が半径数百メートル程度であることを考慮し、**全国を1km×1kmのメッシュに分割した上で、サブ６周波数帯の基地局※１を開設したメッシュ※２数を分子、高トラヒックエリア※３のメッシュ数を分母**として計算。

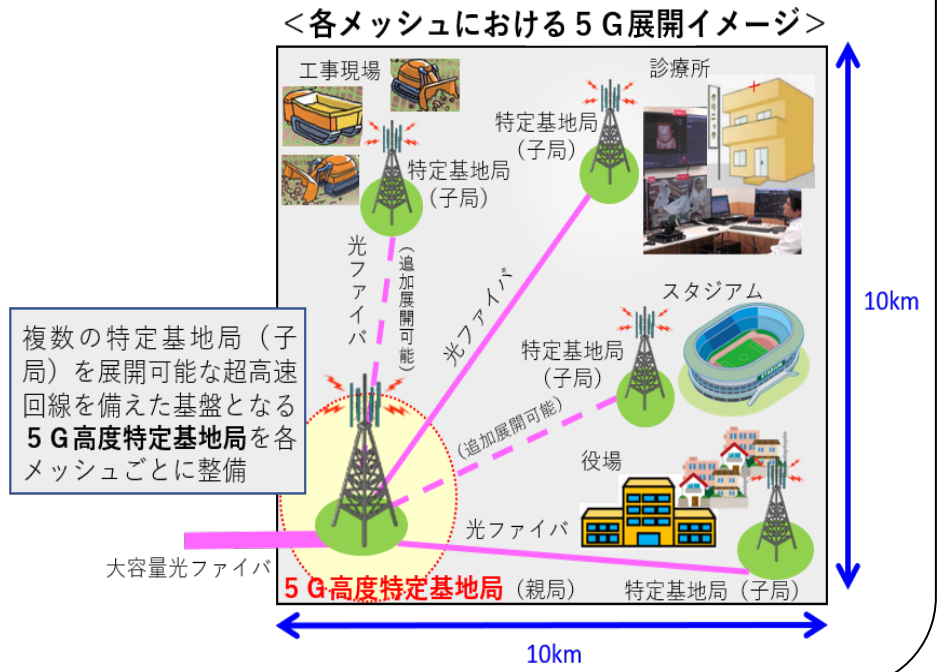
※1　陸上移動中継局を含み、屋内等に設置されているものを除く。
※2　サブ6基地局により面積の3/4以上がエリア化されているメッシュを含む。
※3　人口集中地区の面積が13,250平方キロメートルであることを参考に、人口が上位の13,250メッシュを指す。

- これまでの５G用周波数の割当て時の指標（５G基盤展開率）よりも、より緻密な基地局の展開が期待される。

サブ６周波数帯の展開率の概念図



（参考） ５G基盤展開率



ミリ波基地局数の状況（令和7年度末（2025年度末））

- 全国のミリ波基地局※1数は、2025年度末で**約4.5万局**※2。

※1 27.0GHz～28.2GHz又は29.1GHz～29.5GHzの周波数の電波を使用する基地局（陸上移動中継局を含み、屋内小型基地局及びフェムトセル基地局を除く。）
※2 目標：2027年度までに5万局【デジタルインフラ整備計画2030】

ミリ波基地局数※3、4　（2026年３月末）

	NTTドコモ	KDDI	ソフトバンク	楽天モバイル	合計
ミリ波基地局	**6,991局** （＋47局）	**15,679局** （＋379局）	**7,353局** （＋106局）	**15,476局** （－11局）	**45,499局** （＋521局）
テンポラリ基地局	4局	3局	5局	0局	12局

※3　（）は2024年度末値からの増加数
※4　令和7年度の1年間の中で一定期間のみ開設された基地局（テンポラリ基地局）の数を含む。

ミリ波活用レポートの概要①

ミリ波の具体的な整備スポット及び今後の見通し

ＮＴＴドコモ

- 数万人単位の人が集まるスタジアムへ設備設置可能な位置に最大限ミリ波基地局の設置を実施。
- ミリ波の更なる活用に向け、大規模なスタジアムへのミリ波整備を強化。また、ミリ波端末の普及率向上に向け、ミリ波の魅力の訴求が必要であるため、体験型のイベントを進めている。
- ミリ波エリアを効率的に拡大する共用中継器を開発・設置済み。

MUFGスタジアム



©Japan National Stadium Entertainment Inc.

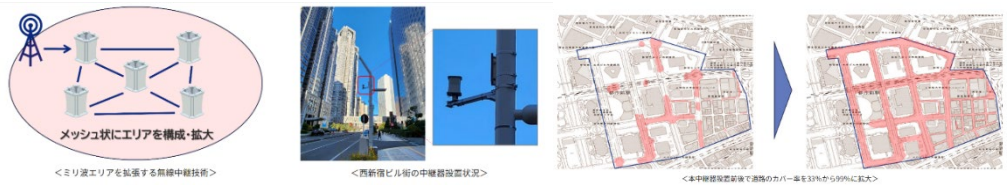
IGアリーナ



©Aichi International Arena Corporation

ＫＤＤＩ

- 東京ドーム、甲子園球場、エスコンフィールドHOKKAIDO、東京駅、羽田空港の一部、西新宿都庁周辺　等に整備。
- 将来的には、トラヒックが高いエリアを中心に、より一層の無線容量が必要と想定しており、効率的にミリ波のカバレッジを拡大するためには、新たなエリア展開手法が必要。
- このような状況を踏まえて、ミリ波中継装置を活用した商用エリア展開を推進中であり、大阪・関西万博といった大規模イベントや新宿西口や高輪といった人が集まるスポットに展開済み。



<ミリ波エリアを拡張する無線中継技術>　<西新宿ビル街の中継器設置状況>　<本中継器設置前後で道路のカバー率を33%から99%に拡大>

ソフトバンク

- PayPayドーム、新国立競技場、東京ビッグサイト、東京駅　等に整備
- ミリ波の広い帯域幅を生かして、大容量通信が必要な場所でのスポットカバー/トラヒック対策を中心に展開。今後の拡大には、トラヒック需要に対応したインフラ整備に加え、ミリ波の特長を生かしたユースケースの創出が重要。CPE※を活用し、5G SAを用いて屋内外の固定系アクセスや特定エリアでの高速通信需要に対応することでミリ波の利活用範囲を広げ、高品質な通信体験を提供していくことを目指す。
- 今後も様々な領域において、ミリ波を効率的に活用できるユースケースの実証・検討を継続し、より高度で安定した通信環境の構築を推進

※ Customer Premises Equipment
（構内設置機器）



楽天モバイル

- 味の素スタジアム、ノエビアスタジアム神戸、パシフィコ横浜展示ホール、楽天モバイル最強パーク宮城、埼玉スタジアム2002、武蔵野の森総合スポーツプラザ、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン、国立競技場、札幌ドーム、国立代々木競技場、幕張メッセ　等に整備。
- 1.7GHz帯、サブ6に併設する形でミリ波を積極的に置局した結果、認定された開設計画を超える整備を実施済み。
- 当初の想定に反してトラヒックは増加していないが、今後も、ミリ波の対応端末の普及などによりトラヒック増加が予想される場合など、需要に応じて整備を予定。

ミリ波活用レポートの概要②

ミリ波の活用事例等

ＮＴＴドコモ

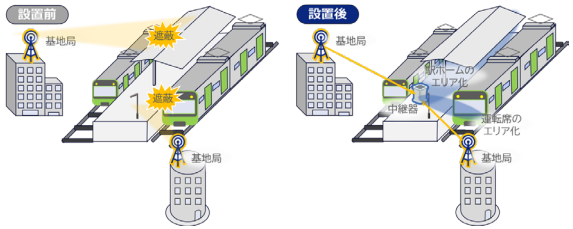
- IGアリーナへミリ波基地局を設置し、スタジアム内で先進性と高速大容量通信をユーザが体感できる環境を整備、エンタメとミリ波を掛け合わせた新たな感動体験を提供。
- IGアリーナのステージにて、ミリ波の対応端末の紹介・講座を開催。ステージ連動ブースではミリ波の速さや魅力を約1,000人が実機で体感。



ＫＤＤＩ

- ミリ波とSub6を組み合わせた「マルチバンドスライシング」による大容量かつ安定した中継用のネットワークを実現。
- 効率的にミリ波エリアを拡張する中継器を開発し、西新宿での道路カバー率99%達成や、国内初となる新宿駅ホームの安定的なミリ波エリア化など都市部でのエリア構築を加速。
- 多様なパートナーと共に、映画やドラマの高速ダウンロードや4K撮影写真の高速アップロードなど、ミリ波ならではの体験価値やユースケースを実証。



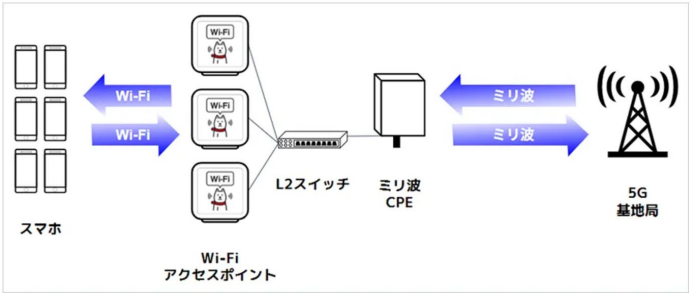


ソフトバンク

- FWAを活用した屋外Wi-Fi通信の実証
- ミリ波の広帯域・大容量を生かし、FWAのバックホール回線として利用
- 大規模な屋外イベント会場において公衆Wi-Fiサービスを提供



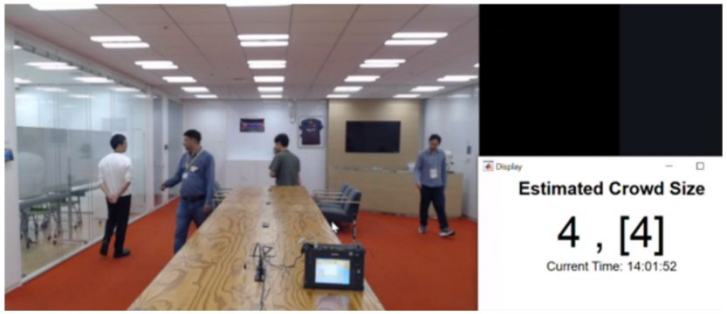
設置した機材



実証実験の構成

楽天モバイル

- 東京科学大学との共同研究において、ミリ波を活用した人感センシングの研究を2023年6月より実施。学会（EuCAP2025）において、本研究の成果を発表。



SA活用レポートの概要①

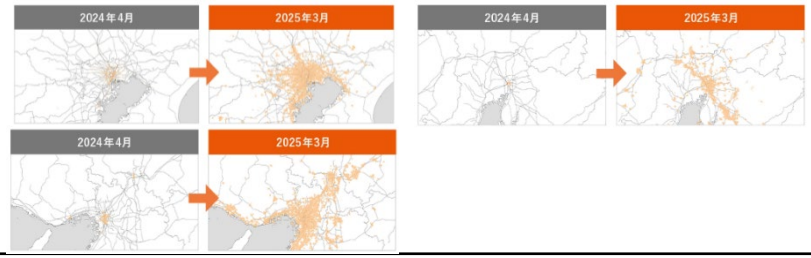
SAの具体的な整備スポット及び今後の見通し

ＮＴＴドコモ

- 5G SAを利用可能な主な施設・スポット、エリアの住所リストは、ホームページにて公表。
- 主要駅周辺やスタジアム、大学、商業施設、空港、観光地といった拠点エリアに加え、周辺エリアや生活動線を含むエリアへ順次拡大中。
- SA対応端末について今後更なる拡大を予定。

ＫＤＤＩ

- 利用者の生活動線となる鉄道路線（山手線、大阪環状線の駅など）や商業地域で重点的にエリアを整備。（令和７年度末のSA基地局数：116,722局）
- 5G SAは、5Gの特長であるネットワークスライスを利用できるメリットがあるが、利用者がNSAを利用している時よりも品質が低下しないように5G NSAと同等以上の品質を確保しつつ、サービス提供。
- 富士山の開山期間において、富士山頂と御殿場口にて5G SAのサービス提供を実施



ソフトバンク

- 都市中心部から適宜拡大中。山手線沿線の一部主要駅等、鈴鹿サーキットにも整備。（令和７年度末のSA基地局数：115,955局）
- ユーザー体感を評価基準として設定し、その基準を満たす地域から順次スマートフォン向けエリアを展開。面的な整備を推進しつつ、トラヒック需要に応じて最適な周波数を活用し、安定的かつ高品質なサービス提供を実現。
- 今後は、ユーザー体感の更なる向上に加え、5G SA特有の機能を活かした新サービスの創出に取り組む。特に、スライシングによる優先制御やRedCapによるIoT分野での活用拡大、VoNRを活用した高品質音声通信の提供を通じ、産業利用の深化や地域社会のデジタル化推進に貢献していく。

楽天モバイル

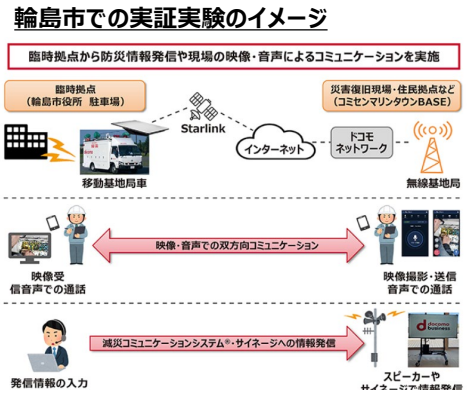
- 現在、コアネットワークにおいて、5GSA化に向けた開発を進めている。
- 現時点においては、2026年12月末頃を目途に運用を開始する予定であり、その後端末検証等を経て、商用化する見込み。

SA活用レポートの概要②

SAの活用事例等

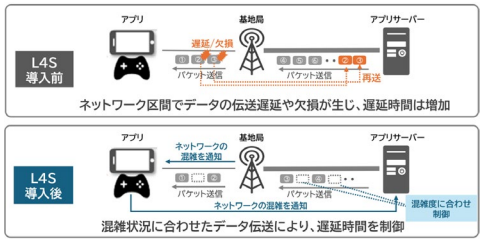
ＮＴＴドコモ

- 法人向けモバイルネットワークサービス「5Gスライシング」の提供を開始。
- 災害時の通信確保に向けた、輪島市での実証実験に成功。
- 博多・天神が“サクサク”快適に通信環境が大幅進化中。



ＫＤＤＩ

- SAの活用事例としては、下記のような多数の取り組み（代表事例のみ記載）を実施。
  - 5G SAで混雑下におけるゲームストリーミングの安定通信に成功。
  - 5G SAのネットワークスライシング機能を活用したドローン空撮映像の安定伝送。
  - ネットワーク混雑時でもパケットの滞留や欠損を回避して低遅延通信を実現する新技術「L4S」を、5G SAの一部エリアの基地局に国内で初めて導入。
- 令和7年3月18日から、放送事業者向け5G SAネットワークスライシングのソリューション提供を開始。



ソフトバンク

- F1日本グランプリで5G SAやミリ波を活用した高度な通信サービスの実証実験を実施
- ネットワークスライシングを活用し、用途に応じた通信品質の適正化と新たなユースケースの創出を目指す



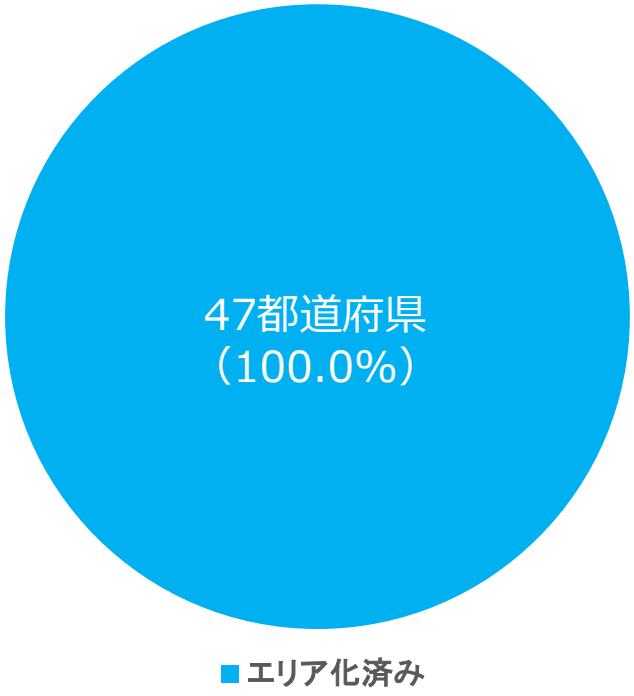
ネットワークスライシングおよびトラフィックのリアルタイム把握・制御のイメージ

地方自治体の本庁舎の5Gカバーの状況（令和7年度末（2025年度末））

- 都道府県の本庁舎の５Gカバー率は、2025年度末で**100.0%**（47/47都道府県）※1,2。
- 市区町村の本庁舎の５Gカバー率は、2025年度末で **98.6%**（1,717/1,741市区町村）※1,2。

※1 目標：2025年度末までに100%【デジタルインフラ整備計画2030】
※2 携帯キャリア5者のエリアカバーを重ね合わせた数字（小数点第2位以下を四捨五入）

都道府県



市区町村

